

# 訪問看護ステーション那須

那須塩原市佐野2-19

## 施設アピール

令和元年11月より訪問看護ステーションが再稼働しました。  
利用者様、ご家族様に寄り添い、患者様の「自分らしさ」を尊重し心のこもった医療サービスを提供します。  
何かあればいつでも迅速・丁寧に対応しますので、ご相談下さい。

私たちは、ワンチームで利用者様を支えます。

## 施設の役割や特徴

診療所併設のため、県北地区の総合病院からの依頼が多く、ターミナルで重症のケースが多いように思われます。

今年は、コロナ禍で在宅の看取りも以前に比べて増えてきており、職員への負担が大きくなってきているのも事実ですが、チームケアで積極的に対応しています。

また訪問リハビリもあるので、難病やターミナルでもリハビリを行っているケースもあります。

訪問看護師として、福祉的な視野がまだまだ弱いのかなと感じることがありますが、福祉分野の皆様と連携して、もっと在宅を知る努力をしていきたいと思えます。

スタッフ  
看護師常勤4人、非常勤2人  
理学療法士7人、作業療法士2人  
言語聴覚士1人

## 連携している主な医療機関

那須赤十字病院、国際医療福祉大学病院、菅間記念病院からが多く市内の診療所等はケアマネジャーを通しての依頼があります。



利用保険割合  
医療保険：4割  
介護保険：6割

管理者  
江崎誠様  
(看護師)

## ケアマネジャーとの連携で ちょっと気になったこと

連絡ノートについては訪問看護の記録としての独自のものがありますが、「那須塩原市」としての連絡ノートがあると更に多職種間の連携が深まるのではないのでしょうか。

ケアマネジャーの方もいろいろな職種の方がいる中で、内容が伝わるケースと伝わりにくい場合があります。

例えば言語聴覚士の介入があった場合、看護師の訪問は3か月に1回なのですが、顔を忘れられていたり、状態にも変化がみられることがあります。そんな時こそお互いに情報の共有を密にして、一緒に支援方法を再検討するなどして、再度依頼していただけると、タイムリーに利用者にあった支援ができると思います。

また介入してから福祉用具の選定をする際、「デイサービスの看護師がいるので、訪問看護師のアドバイスは必要ない」といわれたことがあります。チームケア仲間として寂しい思いをしました。

## ケアマネジャーに期待すること

我々看護師は、疾患名や症状をみて医療中心に人を見がちですが、ケアマネジャーの方々は、利用者の生活を一番に考えていることを感じ、理解しています。

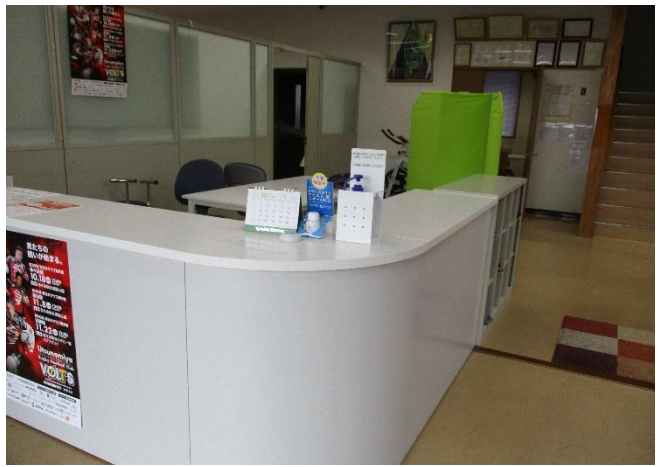
ケースの依頼に限らず、疾患や看護について、またリハビリ等も含め、聞きたいことがあればいつでもご相談下さい。

些細なことでも情報を共有し合い、利用者の方々が、安心して在宅生活が送れるように、医療と介護が一丸となって、一緒に支援していきたいでしょう。

一日も早く、マスクが取れて、笑顔が見える関係づくりができる普段の生活が、待ち遠しいですね



おだやかな表情でお話をしていただきました



事務室は、すっきりと整理整頓されています。

### 菊池先生の在宅医療への思いから

以前病院に勤めていた頃、家に退院したいが誰も見てくれる人がいないので帰るに帰れないと、耳にすることが多々ありました。このような患者さんのために何か役に立つ事ができないかと考え、在宅医療に取り組んだとの事でした。在宅医が不足して、困っているのだったら、自分達でやってしまおうという単純な発想から今の訪問診療所ができたのです。

現在、那須訪問診療所には在宅医療を支える医療と福祉のスペシャリストが揃っています。

これからは、地域づくり、まちづくりの視点から活動を広げたいそうです。今後のご活躍を期待しております。

### 関わった事例で心に残ったこと

#### ・40歳代でターミナル期患者様

在宅での疼痛コントロールが困難になり本人の希望で病院にもどりましたが、このコロナ禍で家族の面会が限られています。今後在宅に帰れる保証はありません。家族思いの方だったので悔やまれます。

#### ・2か所の訪問看護ステーションで関わった白血病の患者様

輸血については当ステーションが関わり、2〜3時間滞在し看護師の負担もありましたが、訪問医師がいることで対応できるという安心感がありました。

また点滴の管理は他の訪問看護ステーションが対応し連携を図りながら支援することができました。

#### ・事例を通して訪問看護師として感じたこと

病院で勤務していた時は退院後の姿を見る機会は殆どありませんでした。

しかし在宅側に立つと、時間は限られてはいてもその方だけを独占して看護できることに喜びを感じています。

また同じ看護師でも視点の違いがあり、多方面から意見交換ができることも仕事の醍醐味です。



イメージカラーはピンクなのでしようか。  
緑の中にピンクの看板が、来所者を歓迎するかのようです。  
そして、街中を走るピンクの訪問車、あちらこちらで見かけます。  
一人では抱えきれない在宅医療を、多職種で分け合っていていけば、できないことはないと思います。  
地域にピンクの花がたくさん咲きますように・・・

豆記者